

校長室だより

# 共学共高

第  
34  
号

令和4年11月15日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

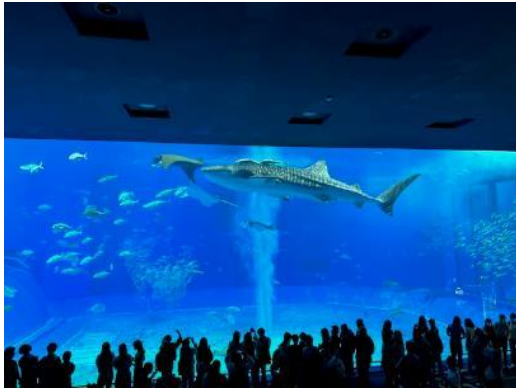
## ～修学旅行特集その2～

沖縄・石垣島コースの修学旅行 2 日目の朝を迎える。乗車するバスの号車ごとに朝食時間が決められており、生徒たちはそれに合わせて朝食会場へやってくる。朝食もブッフエ方式であるが、ご飯派・パン派のどちらにも対応できるようになっている。思い思いに好きなものを選んでしっかりと食べている生徒が多い。

午前中は、美ら海水族館の見学である。この見学を楽しみにしている生徒は多いようだ。生徒たちと交わす会話からそのことが伺える。バスの集合時間までに各自で館内を自由に見学する。こちらの水族館では、何ととっても巨大水槽「黒潮の海」を泳ぐジンベエザメやマンタが人気ようだ。水槽の前では生徒たちが立ち止まって、写真を撮る姿が見られた。私も水槽前でそれらをスマホのカメラで撮影した。すると、二人の生徒が「校長先生、写真撮ってください。」と言い寄ってくる。「いいですよ。」と答え、ポーズをとろうとしたが、彼女たちを撮ってくださいという依頼だとわかり、思わず赤面しそうになる。以後、生徒たちから「写真を撮ってください。」と言われたら、「いいよ。撮ってあげるよ。」と答えるようにしたが、時折、「違います。校長先生と一緒に撮りたいのです。」という生徒もいて、戸惑う。(笑)

私は、その後、ウミガメたちが泳いでいる水槽をのんびりと見学し、イルカショーへと向かった。生徒たちも多く参観していたようだ。39歳のイルカが現役で活躍していることには驚いた。

お土産コーナーも生徒たちに人気であった。ある生徒が、チンアナゴの大きなぬいぐるみを購入して、「校長先生、見てください。これを買いました。」と報告してくれた。チンアナゴは砂地から垂直に胴体を伸ばし、ゆらゆらと踊るように揺れている仕草をする、愛らしい生き物だ。そのぬいぐるみをリュックに差し込み、頭部だけを見えるようにして歩くのも一種のおしゃれな振る舞いのようだ。(添乗員さん情報)



続いて、バスにて古宇利オーシャンタワーへ移動する。30年ほどの工事期間を経て完成した橋を渡り、現地へ到着。昼食をいただいて、各自でタワー内を見学したり、お土産を購入したりする。タワーの最上階には鐘が吊るされていて、恋人と一緒に鳴らすと成就するらしい。ちょっとした写真スポットだ。生徒たちも並んでいたが、私はすでに成就しているので並ばず、眼下に広がる美しい海の景色を楽しむのであった。お土産屋さんはいかにも女子生徒受けする品揃えで多くの生徒が会計のために行列していた。ある生徒が「校長先生、パイナップルチョコがおいしいですよ。」と教えてくれたが、列に並ぶのが嫌で購入しなかった。集合時間ギリギリに何とか全員が無事にそれぞれのお土産を購入することができた。



次の訪問先は、琉球村である。ここでは、教員も含めて全員が貝殻を使ったフォトフレーム制作を体験する。どのような貝殻を使って装飾するか、各自が思い思いに楽しんで作り上げていた。やはりセンスが良いのは生徒である。私のフォトフレームはアピールポイントがなく、面白みにも欠ける。生徒たちの作品は感心させられるものが多かった。



続いて村内の見学である。国の登録有形文化財などが展示されており、沖縄文化を体験できる場所である。訪れた時に、ちょうどエイサーショーが開催されており、生徒たちと一緒に楽しんだ。踊り手の男性たちが太鼓を叩くときに、張った太鼓面の一端を左の手のひらで押さえながら叩いていたが、自分の手を叩いてしまわないものかと心配した。私だったら、きっと叩いてしまうに違いない。太鼓面を叩くと、叩いたところを中心にして同心円状の波と直線状の波が同時に周縁部へ向かって進んでいるはずだ。(ちょっとした物理の知識。エヘン。) 太鼓面を左手で押さえることによって何か調節しているのだろうか? などと考えてしまう私がいた。観客である私や生徒たちも観客席において、踊り手と一緒に手の動きを揃えながら楽しんだ。出口付近では、私の良く知っている生徒二人が、本日2個目のアイスク

リームを食べていて、目が合うと照れたような笑顔を見せていた。  
昨夜と同じホテルに宿泊し、沖縄本島2日目が過ぎた。(つづく)



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)